

## 『道徳と教育』第340号の特集論文募集について

### 特集テーマ：今、道徳科の学びを問い直す

『道徳と教育』第340号の「特集テーマ」は、「今、道徳科の学びを問い直す」です。特集テーマに掲載する論文は、編集委員会からの〈依頼論文〉と会員の皆様からの〈投稿論文〉で構成されています。編集委員会では、会員の皆さまの積極的な投稿を歓迎しています（研究論文・実践研究論文と同様の査読があります）。

学習指導要領は、新型コロナウイルス感染症拡大下で小中学校での全面実施を迎えることとなりました。私たちの社会を大きく変化させたコロナ禍のなか、学校は、「新たな日常」のもとで学習指導要領が目指す「主体的・対話的で深い学び」をどう実現するかという難しい問いに向き合わなければならなくなっています。

その一方で、コロナ禍は、新たな学びの在り方の構築を加速しています。中央教育審議会が取りまとめた『「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現（答申）』（2021年1月26日）では、予測困難な時代のなかで、「日本型学校教育」の良さを受け継ぎ、更に発展させる新しい時代の学校教育の実現に向け、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実する学びの姿が提起されました。

道徳教育では、特別教科化を契機に、「考え、議論する道徳」や「主体的・対話的で深い学び」をキーワードに、学習指導過程や指導方法の改革が進められてきました。これからの学校教育における新たな学びの姿が問われるようになった今、道徳科においても、学びの原点に立ち返りつつ、道徳科における学びとは何か、新たな時代における学びはどうあるべきかについて、理論的・実践的に問い直すことが求められているといえるでしょう。

本特集では、以上のような問題意識に立って、新たな時代の学校教育の構築に向けた道徳教育の可能性や方向性を多様な視点で検討したいと考えています。論文の主題としては、たとえば、「令和の日本型学校教育」と道徳科の学びの在り方への理論的・批判的検討、特別教科化以降に進められてきた道徳科の指導法の成果や課題の検証、道徳科における個別最適な学びと協働的な学びの構想、ICT等を活用した新たな学習指導方法の提案、子どもの学びを支援する新たな教師像に向けた教師教育・研修の在り方などが考えられます。会員の皆さまには、これらの例示に限定されることなく、様々な立場から多様な切り口で道徳科の学びを問い直していただきたいと期待しています。

投稿にあたっては、本ウェブサイトに掲載の「学会誌執筆要領・投稿規定」と「編集委員会からのお知らせ」を参照いただき、「投稿論文チェックシート」を添えて、下記へ郵送でご提出ください。

締切：2021年9月30日（必着）

提出先：〒100-8951 東京都千代田区霞が関3-2-2 国立教育政策研究所内

日本道徳教育学会学会誌編集委員会